



4 悠久山プール
●平成7年に開館した屋内温水プール(25m×8コース)は一年中利用可能で、市民の健康づくりの場となっている。また屋外には滑り台付きのひょうたん型と四角型の2つの幼児プールがある(夏季のみ営業)。

●開館時間:10:00~17:00
(夏季は9:30~17:00まで)
●休館日:毎週火曜日及び年末年始
お問い合わせ:☎0258-35-6368
※詳細については施設へお問合せください。



A 長岡町橋・新潟町橋
●江戸時代につくられた橋。欄干に橋を寄進した長岡商人の名前が刻まれている。さらに進むと新潟町橋もある。



F 招魂社
●北越戊辰戦争と西南の役の旧長岡藩士犠牲者を祭祀。現社殿は明治45(1912)年9月に改築されたものである。



桜

●県内でも有数の桜の名所として知られる悠久山公園。園内には約2,500本の桜があり、春になると公園全体がピンク色に染まる。瓢箪池東側の松山などには、花色が淡黄緑色の鬱金(ウコン)といった珍しい品種の桜もある。



5 悠久山野球場
●毎年高校球児たちの熱戦が繰り広げられ、プロ公式戦も行なわれる。イチロー(当時オリックス)が、プロ入り初のホームランを打った(相手は当時近鉄の野茂投手)球場でもある。



B 一の鳥居
(寛政12年建立、九代牧野忠精路)・二の鳥居・三の鳥居
●北越戊辰戦争で長岡城を攻め落した新政府軍は悠久山に押し寄せ、牧野家ゆかりの蒼柴神社を焼き払おうとした。しかし、三の鳥居に光格天皇の勅額と伝えられる「蒼柴大明神」の額が掲げられていたのを見て、「われらも官軍なれば焼き討ちすべきにあらず」と引き下がり、神社は火難から免れたという話が伝えられている。



G 旧長岡藩主牧野家霊廟
●二代藩主・忠成(ただなり)から十一代忠恭(ただゆき)までの墓碑。昭和58(1983)年に牧野家の菩提寺である東京三田の済海寺からこの地に移された。



C 桜第門

●三代藩主・忠辰が生前好んだという桜を、九代忠精が植えたといわれ、古くから市民に「お山の千本桜」として親しまれている。参道わきの桜は「桜第門」あるいは「桜雲路」と呼ばれ、満開のときには美しい桜の門をくぐり神社に参拝した。



D 蒼柴神社(拝殿)

●天明元(1781)年に建立された権現造の神社。日光東照宮を模したつくりで、完成までに12年が費やされた。蒼柴神社の祭神は、三代藩主の牧野忠辰と忠辰が崇拝した事代主命(ことしろぬしのみこと:「古事記」に出てくる神で「えびすさま」として知られる)である。北越戊辰戦争と長岡空襲の二度の戦火から免れたこの神社には、牧野家まつわる貴重な文化財などが数多く保管されており、本殿はその荘厳な姿を当時のまま今に伝えている。



E 蛇池・蛇橋(玉橋)

●上流の小川から流れてきた水溜りの形が蛇に似ていることから、この名前が付いた。この橋を渡るときは親指を握り隠して渡らないと、親が蛇に食われてしまうという言い伝えがある。御影石造りの橋は、明治~大正時代の実業家・大橋新太郎の寄進による。



泉翠池・瓢箪池

●泉翠池は、大正7(1918)年の公園造成時に東西45メートル、南北215メートル、深さ1.2メートルでつくられたもの。



菖蒲園

●悠久山のハナショウブは、昭和32(1957)年ごろ、明治神宮から移植されたのが最初。53(1978)年に泉翠池と瓢箪池の間に菖蒲園がつくられた。6~7月にかけて約80品種1,300株ものハナショウブが見事に咲き誇る。

ツツジ

●公園内には約1,000本のツツジがあり、5月初旬から中旬にかけて花を咲かせる。とくに神社から広場へ向かう道の左側に植えられている200本ほどのツツジは、アカマツの緑とのコントラストが美しい。



悠久山 散策 マップ



郷土史料館、蒼柴(あおし)神社と一帯をなし、「お山」の呼び名で親しまれている。長岡藩三代藩主牧野忠辰(ただとき)が佐渡の杉苗をはじめ、松や桜などを植えて育てたのが始まりと言われ、大正6(1917)年の長岡開府300年記念に公園化が決定、同8(1919)年に令終会(宝田石油社長・山田又七ら60歳以上の市民有志)の手で完成した。公園の総工費は、当時の金額で約54,000円で、完成後市に寄贈された。

総面積32.3ヘクタールのこの公園は、桜をはじめツツジ、ショウブ、紅葉、雪景色と、四季を通じて市民の憩いの場となっている。泉翠(せんすい)池を中心に広がる散策路では植物や昆虫、野鳥などの自然観察を楽しむことができる。

悠久山の名の由来 悠久山

蒼柴神社が天明元(1781)年に建立された際、山の名称を「三官山(さんがんやま)から「悠久山」に改めた。この名の由来は「中庸(人道を説いた中国の古い書物)の「博厚は地に配し、高明は天に配し、悠久は疆り無し」から命名されたといわれている。

令終会

大正5(1916)年、「60歳以上の人だけで、長岡の公共のために何かできないものか」と、宝田石油(のちに日本石油と合併)前社長・山田又七ら市の有力者が集まって会が結成された。会の名前は「終わりを全うする」という意味を持つ。悠久山公園は彼らの熱意と努力で整備されたものである。



山田又七



3 悠久山小動物園

●約30頭のニホンサルが集団生活を送るサル山を中心に、ツキノワグマ、クジャク、アライグマ、ウサギ、キジ、クロチキなどが飼われている。

●開園時間:8:30~17:00
●休園日:年中無休
●入園料:無料
お問い合わせ:☎0258-37-6385

1 長岡市郷土史料館

●城をかたどった史料展示館であるが、長岡城を復元したものではない。館内では主に、近世から近代にかけて活躍した、長岡出身の先人の業績や人となりを紹介されているほか、かやぶき農家の復元展示、雪国ならではの民俗資料の展示などもあり、天守閣部分の4階からは長岡市街、新潟平野が一望できる。

●開館時間:9:00~17:00
●休館日:月曜、祝日の翌日および年末年始
●入館料:大人300円、高校生200円、小・中学生150円
お問い合わせ:☎0258-35-0185

2 悠久山公園自由広場

●面積8,000㎡の広場でステージもあり、市民が自由に利用できる。4月には、大勢の市民が広場で桜見物に興じる。

